

摂津が歩んだ50年

～あの日、あの場所の記憶～

摂津市は、今年11月1日に市制施行50周年を迎えます。50年の歩みは決して当たり前にあるものではなく、ここに暮らし働く全ての人の日々の営みがあったものです。そ

して、市が順調に発展を遂げることができたのは、まちづくりの力を尽くされた多くの人たちのおかげです。今号では、市民の皆さんとともに歩んできた摂津市の50年を昔懐かしい写真や出来事で振り返ります。50周年を節目に、未来に向かって、摂津市を愛する人たちの思いや願いを大切に引き継ぎ、ますます住み良い、魅力的なまちを築いていきます。

本特集の取材で、市民の方が「都会の中に昔懐かしい面影を残している摂津市の風景が気に入っている」と言っていたことが印象に残っています。

古い写真と今の写真を見比べてみると、50年の歳月により、大きく変わったまちの姿に驚かされます。その中で、昔を懐かしむことのできる場所があることも、摂津市の魅力の一つだと気づかされました。

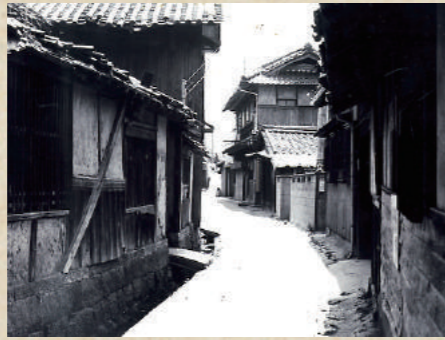
鳥飼本町 (昭和 47 年)



(現在)



十三高槻線 (昭和 41 年)



(現在)



J R千里丘駅西口 (昭和 41 年)



(昭和 58 年)



(現在)



(現在)



摂津市役所～鶴野方面 (昭和 41 年)



昭和 42 年の集中豪雨

中央環状線 (当時)



(現在)



JR 千里丘駅ガード (当時)



(現在)



摂津市ができるまで

昭和31年(1956年)、味舌町、味生村、鳥飼村が合併し、人口17,054人の三島町が誕生しました。その後、昭和35年までに三宅村の一部が編入され、ほぼ現在の市域が形成されました。

昭和41年(1966年)、大阪府内28番目の市として摂津市が誕生しました。施行時の人口は43,557人で、三島町施行時の約2.5倍に増加しました。

摂津市の名称は、一般公募により、全国各地から集まった1,200通を超える

案の中から選定しました。当初、三島野市を新市名案としましたが、町民からのさまざまな意見により審議が重ねられ、摂津市に決まりました。



TOPIC

土地区画整理事業 新しいまちの整備

市は、市制施行後、急激な都市化に対応するため、土地区画整理事業を積極的に進めました。

安威川以北では昭和43年から57年までの間に太中、鶴野、小坪井地区と事業が続きました。安威川以南では昭和46年から、広大な農地が残る鳥飼地区(238ha)の整備に着手。昭和63年に事業が完了しました。

◆平和公園完成(昭和61年11月)

市制20周年を記念し、平和公園が完成。国内最大規模のカリヨンのある同公園からは、今も変わらず季節に合わせたメロディーが流れています。



◆第1回摂津音楽祭開催

(昭和61年11月)

市制20周年を記念して始まった摂津音楽祭。全国から予想を上回る参加者があり、予選は2日にわたり行われました。



◆JR千里丘駅橋上駅舎完成

(昭和58年3月)

JR千里丘駅の朝夕のラッシュ時の混雑は市の課題となっていました。駅の橋上化により、かなり緩和されました。



◆市民図書館完成

(昭和59年7月)

市内初の図書館がオープン。開館時の蔵書数は4万5千冊。午後8時までの開館時間は、府内では先進的な事例でした。



1977-1986 昭和52年～61年

人口が8万人に
都市へと大きく発展

急激な人口増で、昭和55年に人口8万人となった摂津市。阪急正雀駅・JR千里丘駅(当時は国鉄)の橋上化や、土地区画整理事業が進められ、田園風景から市街地へと姿を変えていきました。また、福祉や文化・スポーツなどの施設が次々と整備され、市民が生きがいを持って心豊かに暮らせる施策が展開されるようになりました。



◆全国初の高齢者生きがい公社・協会誕生(昭和53年4月)

高齢者に働く場所を提供し、仕事を通じて生きがいのある生活を送ってもらおうと、全国の自治体に先駆けて「(財)摂津市高齢者生きがい公社(現・シルバー人材センター)」を発足しました。

1966-1976 昭和41年～51年

摂津市誕生

若者のまちがスタート

50年前の昭和41年11月1日、摂津市が誕生しました。摂津の名前は、古来よりこの地域に由緒のある「摂津国(せつつのくに)」から付けられました。人口の約8割が40歳未満の若者のまちとしてスタートした摂津市。市内の全世帯には記念の風呂敷が配られました。

◆集中豪雨で甚大な被害

(昭和42年7月)

1時間に60mmを越す急激な集中豪雨により、安威川や大正川など市内の主要河川が相次いで決壊。市域の3分の1が浸水し、中央環状線も完全にストップするなど甚大な被害を市にもたらしました。たくさんの市民が土嚢を運び堤防の復旧にあたりました。



▲市民図書館周辺



◀市役所周辺

◆青少年運動広場完成

(昭和43年8月)

野球などができるグラウンドがなかった本市に待望の運動広場が完成。開場式では、こども会のソフトボール大会が行われました。



◆第1回摂津まつり開催

(昭和51年8月)

市制10周年を記念して始まった摂津まつり。第1回の開催では、JR千里丘駅(旧国鉄)から市役所隣の会場までパレードが行われました。



TOPIC

学校建設ラッシュ

市が誕生して以降、児童・生徒数が急激に増加しました。なかでも小学生は、昭和42年から55年までの間に約3倍増となる1万2千人に達しました。

市は、昭和43年から59年までの16年間に小学校を7校新設。中学校は移転した一中を含めると、現在ある5校すべてがこの間に建設されました。



▲市制施行祝賀式(昭和41年11月)

- 昭和
- 41 市役所庁舎、消防庁舎完成
11月、市制施行府内28番目の市となる
- 42 集中豪雨で市内河川が決壊、災害救助法適用
- 43 青少年運動広場完成
- 45 三島中学校を第一中学校と改称
- 46 市制5周年 市民憲章、市の木「クスノキ」、市の花「ツツジ」を制定
- 48 「保育所設置費国庫負担金請求訴訟(摂津訴訟)」東京地裁に提訴
- 49 新小学1年生(50年入学)にランドセルのプレゼントを開始
- 51 第1回摂津まつり開催
摂津訴訟、東京高裁に控訴
- 53 高齢者生きがい公社・協会(現・シルバー人材センター)発足(全国初)
- 55 摂津訴訟控訴審判決、東京高裁が本市の控訴を棄却、上告断念
阪急正雀駅橋上駅舎完成
市民文化ホール開館
- 56 市制15周年 市民のうたを制定
- 57 温水プール完成
- 58 国鉄(現・JR)千里丘駅橋上駅舎完成
- 59 ふれあいの里にひびき園完成
ふれあいの里に身体障害者・老人福祉センター完成
摂津郵便局開局
市民図書館開館
- 61 平和公園完成
第1回摂津音楽祭(リトルカメラアイコンクール)開催

生まれ変わる駅前 新たなにぎわいが

JR千里駅前前の市街地再開発は、市制当初からの大きな課題でしたが、平成4年、駅東口に「フォルテ摂津」がオープン。買い物だけではなく、通勤・通学もより便利になり、市の玄関口にふさわしい活力が生まれました。
また、道路や公共下水道などの整備を進め、快適な都市生活の基盤をつくっていきました。



▲建設途中のフォルテ摂津

◆鳥飼仁和寺大橋開通

(昭和62年2月)
摂津市と寝屋川市をつなぐ橋として完成。主塔からケーブルで橋を吊るす姿は、当時から美しいシルエットとして評判でした。

◆第1回摂津市地区市民体育祭開催

(平成3年9～10月)
スポーツを通して地域の交流を深めようと、小学校区ごとで開催。玉入れや親子二人三脚などレクリエーション種目が行われました。

◆フォルテ摂津完成

(平成4年3月)
フォルテ摂津は、平成元年9月から建設が進められてきました。オープン初日には、記念セールや駅前広場で一日店長・叶和貴さんのサイン会や宮川大助・花子さんの漫才などのイベントが行われ、多くの人でにぎわいを見せました。

TOPIC

花の万博で「摂津市の日」

(平成2年9月)
大阪府鶴見緑地で開催された国際花と緑の博覧会（花の万博）。日本を含む83カ国が参加し、2,300万人を超える来場者が訪れました。
大阪府のいちよう館で開催された「摂津市の日」では、摂津まつりの再現や吹奏楽などの催しで会場を沸かせました。

モノレール開通

交通が一段と便利に

大阪国体（なみはや国体）の開催に合わせて建設が進められていた大阪モノレール。平成9年に南茨木～門真市間が開業し、摂津駅と南摂津駅ができました。市内に初めて「摂津」の名が付く駅が誕生し、市の交通の利便性を大きく向上させたことは、画期的な出来事でした。



▲モノレール摂津駅開業記念式典
(平成9年8月)

◆ランド水路の親水整備事業完成

(平成11年4月)
古くは農業用水として利用されていたランド水路。町の発展に伴い廃れ、水の流れない水路となっていました。再整備され、かつてのせせらぎが戻り、憩いの場として生まれ変わりました。



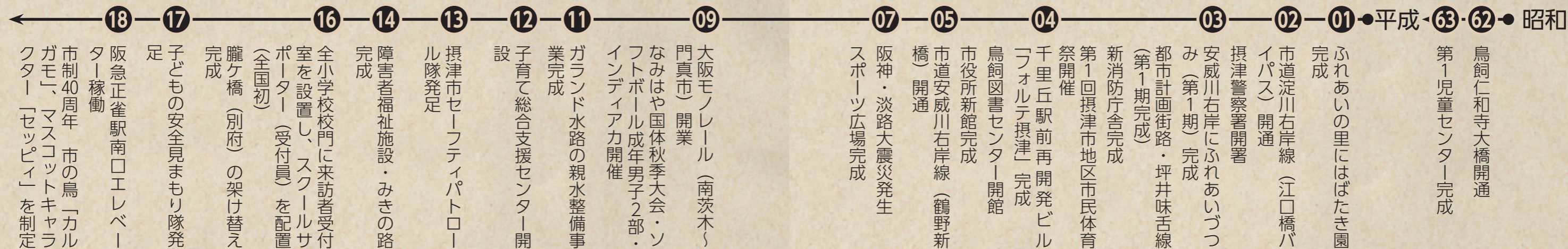
◆子育て総合支援センター開設

(平成12年3月)
子育て中の家庭に対し、さまざまな支援を行う施設として誕生しました。「保育所」と、子育て家庭の交流の場「地域子育て支援センター」、児童相談に対応する「家庭児童相談室」の3つの機能が備わった総合的な施設です。

TOPIC

地域で守る子どもの安全

子どもの犯罪被害が各地で発生したことを受け、地域で子どもを守る取り組みが広がりました。
自治会では、平成13年から次々と「セーフティパトロール隊」が結成されました。平成16年、市が全国で初めて全小学校校門に設置した受付室では、地域住民のボランティアがスクールサポーター（受付員）として活動。平成17年にはPTAを中心に地域団体などで構成する「子どもの安全見まもり隊」が発足しました。
これらの活動が、平成18年の「子どもの安全安心都市宣言」につながりました。



夢が形に そして未来へ

JR千里丘ガードの開通、阪急摂津市駅の開業と「コミュニティプラザ」の開館。長年の夢や新しいまちづくりが形になりました。

平成27年4月に誕生した千里丘新町では、現在、健康と医療に重点を置いたまちづくりが進められています。次の夢へ向かい、摂津市はますます前進していきます。

◆吹田操車場跡地まちづくり (平成19年6月～)

北大阪健康医療都市（健都）として健康・医療のまちづくりが進んでいる吹田操車場跡地。その構想がまとまったのは平成19年6月のことです。構想の一つは摂津市域に公園を中心とした居住空間が作られること。平成28年3月に防災機能を備えた明和池公園が完成しました。



▲明和池公園

◆JR千里丘ガード開通 (平成21年9月)

JR千里丘のガードが2車線になり、対面通行が可能となりました。昭和初期に建設された同ガードは、1車線道路であったため、交互通行に伴う交通渋滞を慢性的に引き起こしていました。

平成3年から着手したこの事業は、18年の歳月を経て完成しました。



▲開通記念式典

◆阪急摂津市駅開業・コミュニティプラザ開館 (平成22年3月・7月)

平成20年から進められてきた南千里丘のまちづくり。核となる阪急摂津市駅とコミュニティプラザは平成22年に完成しました。

摂津市駅は、日本初のCO2排出量0の「カーボン・ニュートラル・ステーション」。まち全体が環境や景観に配慮されています。



- 平成
- 19 阪急正雀駅西口エレベーター稼働
- 20 JR千里丘駅バリアフリー化とエレベーター完成
- 21 JR千里丘ガード開通
全中学校普通教室にエアコン配備
- 22 鳥飼大橋架け替え事業が完成
- 23 東日本震災発生
全小学校普通教室にエアコン配備
- 24 地域福祉活動支援センター開設
- 26 JR千里丘駅西口エレベーター稼働
- 28 千里丘新町まちびらき
明和池公園オープン

早鐘が鳴り響く 42年の集中豪雨

馬場 宏さん
(77歳・三島)



雨が降り続けていた昼頃、近くの寺から水害の危険を知らせる早鐘が鳴り響きました。「防領の所の堰（せき）が切れた」と誰かが叫ぶ声が聞こえました。大正川に架かる防領橋付近の堰が切れ、水が住宅地に流れ込んできたのです。床上浸水した家屋も多く、田んぼも汚水でつかり、大きな被害が出ました。当時は災害を知らせる情報が十分ではありませんでしたが、皆が率先して近所に声をかけ、危険を知らせていました。堤防が整備された今でも、地域の連帯感は大切だと思います。

摂津音頭の 生みの親

岸本 嘉名男さん
(78歳・桜町)



当時（昭和51年）、私は摂津高校の教師でした。高校にはまだ校歌がなく、校内で歌詞を募集していた時で、これに応募しようと考えていたところに、市の広報紙で摂津音頭の歌詞募集を見つけたのです。歌詞は市民憲章を参考に、踊ることを意識して作りました。第1回の摂津まつりで、私の作った歌詞に合わせて皆さんが踊る様子は、気恥ずかしさもありましたが、大変うれしく思いました。摂津市はどんどん発展しています。当時と変わらず田舎めいた感じが残っているところが私は好きです。

誕生から50周年の節目を迎える摂津市。50年の歴史は、いつも市民の皆さんとともにありました。この間の特徴的な出来事について市民4人の方から当時の思い出を語っていただきました。

市民インタビュー あの日、あの時

見守り続ける 学校受付員

古川 政弘さん
(78歳・桜町)



学校の安全対策として全小学校の校門に受付員の配置が決まった時（平成16年）、校長先生から、声をかけられました。私の子ども二人がお世話になった学校でもあり、何か貢献したい気持ちから受付員になり、今まで続けています。不審な入校者がいた場合の声かけはもちろん、遅刻し泣きべそをかいた児童を励まし迎え入れることもありました。町で私を見かけ、走り寄って来る子どもの姿はうれいものです。受付員の時だけではなく、平日頃、子どもを見守り続けること、それが私の信念です。

第30回摂津音楽祭 市民初の入賞

仙臺 玲さん
(23歳・浜町)



摂津音楽祭（リトルカメリアコンクール）のことを知ったのは、在籍している大阪音楽大学で見たチラシです。家族から聞いていた音楽祭の出場を意識した瞬間でした。音楽祭の舞台である市民文化ホールは、中学生の時、吹奏楽部で演奏した経験があったので、なじみがあります。コンクールでは安心して演奏ができました。入賞は本当にうれしく、市の広報紙を見た友人も祝福してくれました。今後の目標はプロになること。摂津市でたくさん演奏したいです。